

ファッションの本

「Dressing is a way of life.」装いは生き方である。フランスのファッションデザイナー、イヴ・サンローランの名言にもあるように、服装は時に重要な意味を持ちます。今回はファッションの本を紹介します。

1冊目は、千早茜/著『クローゼット』です。

舞台は十八世紀から現代までの洋服が一万点以上眠る私設美術館。洋服を愛する人々が集う場所です。補修士として働く纏子の役目は痛んだ洋服を修復すること。服と対話しながら、呼吸をするように服を直す纏子ですが、過去の忌まわしい出来事から逃れられずにいます。この物語は纏子を中心に、出生にコンプレックスを抱く美人学芸員の晶や、ジェンダーを越えた自由で美しい装いに憧れるウェ이터の芳など、様々な人達の葛藤と成長が描かれています。纏子が着る量産型のフリースや、晶がジレの下に締めるタイ。芳がデニムの上に穿くロングスカート等、彼らの装いには強い意志や願いが反映されています。躓きながらも、信じた道を歩んでいく纏子達の姿が眩しい物語です。

2冊目は、NHK「地球イチバン」制作班・影嶋裕一/著『WHAT IS SAPEUR? 貧しくも世界一エレガントなコンゴの男たち』です。

コンゴ共和国には、乾いた土地をランウェイに、ファッションナブルな洋服を身に着け闊歩する紳士達があります。彼らはサプールと呼ばれ、カリスマ的な存在感で地元の人々から支持されています。ビビットなカラーシャツやジャケット、細見のパンツを圧倒的なスタイルで着こなし、堂々とポーズを決めるサプール達。一見奇抜に見える色使いですが不思議と品格があり、葉巻を燻らす姿さえ優雅に見えます。しかし、国自体が決して裕福とは言えないコンゴで、彼らもまた例外ではありません。彼らは何故着飾り、装うことで何を伝えようとしているのか。異質の存在、サプールの謎と魅力に迫る1冊です。

3冊目は、伊藤和子/著『ファストファッションはなぜ安い?』です。

いわゆる「コスパの高い」ファストファッションは、低価格で高品質。手軽に流行を取り入れられるため、多くの人が活用しています。しかし、“低価格で高品質”なのは どうしてでしょう。多くのブランドの商品は、生産コスト削減のため海外に下請企業を設け、そこで働く地元労働者の手によって作製されます。それらの現場では、劣悪な労働環境や長時間労働者たちの声が現地報告と共に紹介されています。華やかなファッション産業の影が垣間見え、消費者である私たちの選択・意識を変える1冊です。

図書館には、今回ご紹介した本以外にも着回しの本や、型紙付きの洋裁の本など、フ

アクションの参考になりそうな本も沢山あります。ぜひ図書館にお越しください。